

防災士フォローアップ研修会(松本大学)

このたび松本大学は「減災と社会の防災力向上の役割を担う防災士が一定の知識・技能を習得した後も引き続いて精度の高い役割を果たせるよう防災士フォローアップ研修会」を開催しました。防災士箕輪町連絡会は地震等自然災害の脅威が喫緊の課題となっていること、箕輪町セーフコミュニティ推進協議会及び多くの地区推進協議会が災害対策を課題としていることから、同研修会に参加して学習しました。



○開催日時 平成 30 年 6 月 30 日(土)午後 1 時 30 分から午後 4 時 40 分

○開催場所 松本市 松本大学

○主催等 主催:松本大学 共催:県危機管理防災課 後援:松本市

○参加者 県下から 200 名を超える防災士

○開催概要

基調講演「減災の取り組みと防災士の役割

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長教授 室崎 益輝 氏

パネルディスカッション

「各団体、企業の取組みから防災士の役割を探る」





○開催経過

松本大学は、平成26年から防災士研修実施教育機関として防災士養成研修カリキュラムを開設しているが、資格取得後の継続研修により地域社会に役立つ活動の必要性から、本年初めて開催したもの。

○講演要点

- ・大震災で、いかに備えるかが問われているが、①正しく学ぶこと②仕組みづくり等正しく構えること③減災の協働システムの担い手として正しく係わることが求められている。
- ・教訓として、関東大震災では臨機応変、阪神大震災では地域連携、東日本大震災では最悪想定等があるが、共助は無敵大である。
- ・大震災における災害対応として、医・職・住・育(子どもの教育)・連(つながり、コミュニティ)・治(自治)が原則としてある。
- ・大震災における専門家の役割課題として、①減災に関わる科学や技術の未熟②市民とのリスクコミュニケーションの不足③技術理論や社会貢献の不足があり、未熟な意見具申や指導は、災害の復旧・復興現場では邪魔になる。
- ・減災とは災害リスクの引き算であり、減災を進める人材として、①土の人・・・地域の主人公と減災を担う人②風の人・・・高い見識を伝えて減災を指導する人③水の人・・・地域に寄り添って減災を支援する人があり防災士にそれが求められている。

○パネルディスカッションでの要点

- 松本市危機管理課長、防災ネットワークしもすわ関係者、民間土木業者、松本大学教授の5名がパネラーをつとめ、取組状況を発表した。
- ・防災しもすわネットワークでは、本年4月に防災士101名でネットワークを立ち上げ、装備としてベストと帽子を製作
 - ・松本市では、送られてくる支援物資(プッシュ型支援)対応として、条例による対応施設設置を検討中。
 - ・熊本地震では、指定避難所の活用は80%であり、収容にはこれと同数の臨時避難所が必要であった。

○長野県防災士協議会の設置予定について

事務局案として、長野県防災士協議会の設置が提案され、詳細は今後示していくので協力をと伝えられた。